

様式1

令和3年度 学校評価表（中間評価）

学校教育目標		かしこく やさしく たくましく												
a ミッション		地域の強みを生かした小中高連携による瀬戸田教育の発展					a ビジョン		地域から信頼され、児童や教職員が自校や地域に誇りが持てる学校			尾道市立瀬戸田小学校		
評価計画					自己評価					学校関係者評価		改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h	i	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値	達成度	評価		イ	ロ	ハ		
確かな学力の育成	基礎学力定着	モジュール学習の確実な実施（週4日 1回15分）	学期ごとの国語（漢字）算数（計算）の単元末テスト80%以上の児童の割合	80%	漢字 50% 計算 55%		62.5% 68.7%	C	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストを行う際、範囲の漢字は定着が見られず、方策の設定が妥当な不明。 基礎学力の定着に関しては、問題点の分析だけでなく、良い点を伸ばす工夫に期待したい。 全国学力テストの結果が公表されましたが、6年生はどうでしたか。モジュール学習の積み重ねの成果が出ているといえますね。活用力や表現力が物足りないという以前の課題は残っています。地道な取組を基礎知識の定着と理解のために引き続き行ってください。 なかなか大変だと思いますが、繰り返し定着を図る必要があると思います。個別対応や一人でもできる学習意欲の向上に向けて引き続き指導をお願いします。 計算などでは、見通しが持てると学習意欲が高まると思います。 	4	1	<ul style="list-style-type: none"> 学期や単元の早い段階で漢字を教え、ドリルやプリントを活用し、長期的に見て定着を図るようにする。 習熟クラスを活用し、個別の課題に応じた支援を行う。 フラッシュ教材を活用し、視覚的に支援するとともに必ず習得させる内容に関しては、繰り返し教えていき、定着を図る。 		
	読解力の育成	国語科の授業研究、1人年間1回以上	学期ごとの国語（読む領域）の単元末テスト80%以上の児童の割合	80%	72%		91%	B	<ul style="list-style-type: none"> 「意図に沿って答えたり、過不足なく抜き出ししたりすることに課題が見られた。 文章の構成や段落の役割の理解が不十分であり、文章を構造的に見ることに課題がある。 文の書き抜きに課題が見られた。普段から文を意識させて読み書きさせる必要がある。 	3	2	<ul style="list-style-type: none"> 普段の学習活動で根拠を示しながら自分の意見を表現したり、解釈したりする場を意識的に設定する。 読解力をつけるため、授業研究を通して言語活動や対話活動を精選していく。長期な考えを交流する活動を取り入れ、モジュールや辞書引きを活用したりして読解力向上をめざす。 学力補充の時間を設定し、問題の解き方や見方を指導し、素早く読み取る練習を行う。 		
豊かな心の育成	ルールやマナーを身につけ、自律した学校生活を送る意欲を高める。	基本的な生活モデルの定着	掃除活動の徹底 そうじのさ（さっと集まる）し（静かに黙って）す（すみずみまで）せ（掃除道具の整頓）そ（そうじをしよう）の確実な実施と振り返り	100%	79%		79%	C	<ul style="list-style-type: none"> 「さっと集まる」は、委員会の放送やチャイムをよく聞いて時間に間に合うよう意識して行動できている。しかし、集まった後、すぐ掃除が始まらない様子も見受けられた。「静かに黙って」も課題のあるクラスがある。 掃除開始までにすべきことの確認など指導を徹底する必要がある。 	4	1	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶はできていると思いますが、返事のできる子が少ないと思います。 達成度の評価を児童から自己申告だけでなく先生や地域の人たち、家庭内での評価も反映できるように工夫も必要ではないか。 掃除活動の徹底については、絶対評価よりも、個人内評価（自己評価）を重視したい。 掃除活動の取組は、進んで働くボランティア精神、美化活動 自他のために働き役つ喜び等の育成を期待するのですが、かなりの増えが必要です。児童のやらされている感の払拭をしてほしい。改善案に記されているように精進の声掛けと評価をシャワーのごとくかける。また、教職員と児童が一緒に活動しているという意識を図るという案はよいと思います。 	教師からの肯定的な声かけや事前の打ち合わせなど教職員と児童双方の意識統一を図る。	
		気持ちのよい挨拶の励行	自分から進んで、誰にでもはっきりと挨拶することができる児童の割合	80%	84%		105%	A	<ul style="list-style-type: none"> 結果から、児童の意識と教師の見取りに差がある。児童は、挨拶しているつもりだが、実際は全くできていない。 児童や生徒指導の連携をもっと行う必要がある。学校全体として確認していく必要がある。 	4	1	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の必要性や意味を伝えるだけでなく、教職員自身が挨拶の姿を示していく。 担当や部会で連携を図り、実態の差が小さくなるよう意識統一をする。 		
健やかな体の育成	体力づくりの推進	体育の授業での体力づくり運動の実施と休憩時間の外遊びの推奨	体力づくり運動や外遊びを行った児童の割合	80%	70%		87.5%	B	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の達成度も91%（3月）と継続した課題になっている。 5月には高学年、6月には低学年が外遊びの数値が良かった。 気温や天候に合った運動や外遊びを考えていく必要がある。 	4	1	<ul style="list-style-type: none"> 体力づくり推進の方策をそろそろ変えてみてはどうか。具体的に体力づくりにつながる方策を考えてはどうか。 学力の土台作り、基礎体力作りにもつながるので、体力づくりの推進には期待したい。 今夏は、コロナ感染拡大のところへ、酷暑に長雨にと今までにない経験と観測史上初という言葉を何度も耳にしました。子供たちにとっても、外遊びできる環境ではなかったと思います。ホームページ「体育に関する指導改善計画」では、詳しく資料が掲載されていました。すでに令和4年度のお重点目標値が記載されており、見通しを持って体力推進を図っていくことがわかります。 大人になっても、健康でおいしく食事がとれるためには、歯が丈夫なことが一番です。8020運動をめざして今から歯磨きは大切だと継続指導してください。 体力の向上が目標であれば、体力テストの数値（県や全国との比較の推移）を指標にしても良いかもしれません。 歯磨きなどの習慣は小さい時から行うのが大切です。お願いします。 	5年生の新体力テストの結果より、体力の低下は明らかであり、学年やブロックでの今後の取り組みについて意見交流を行う。	
	食育・健康教育の推進	給食後の歯磨きの徹底	給食後に歯磨きを行った児童の割合	90%	95%		106%	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体として多くの児童に給食後の歯磨きの習慣が身につけている。 歯磨きができていない理由としては、給食で偏食や少食の児童が、給食を食べるのに時間がかかっているためである。 	4	1	<ul style="list-style-type: none"> 月曜日は歯磨きセットを忘れずに持ってこよう。 掃除時間や歯磨きの時間を考えて、自分で食べられる量を調整しているが、各担任が再度全体や個別に指導を行う。 栄養教諭や地域人材の活用により給食の食材に興味を持たせていく。（1学期に1年・空豆、2年・トウモロコシ、3年・スナックエンドウを実施済み） 9・19・29日はかみかみデーの設置。（給食委員会） 各クラスでの歯磨きシールの取り組み。 		
信頼される学校	地域連携によるふるさと学習の充実	小中高連携と地域と関連づけた「ふるさと学習」の教材化	「ふるさと学習」を実施した学年の割合	100%	67%		67%	C	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大の状況下で、地域に出かけて校外学習をしたり、地域の方を講師として招聘したりする学習は、制限が大きく調整が難しかった。一人一台のタブレットを生かした調べ学習をしたり、リモートによる情報交流を工夫したりして、コロナ下での新しい学習形態の開発に挑戦していく。 	4	1	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での地域連携によるふるさと学習は、方法を工夫してやるよりも目標項目そのものを、コロナ禍にあったものに変えるといいたい。リモートやタブレットを使用するのは低学年には難しい。 コロナ禍の影響もあるが「ふるさと学習」の実施は重視してほしい。 どうしても個々の取り組みにせざるを得なかった面があると思います。私たちをどう活用してください。指標は「ふるさと学習」を実施したかというものでなく、子供達の成果物や向人の講師と連携したか、あるいは小中高との連携回数や内容にした方が効果的かと思いました。 たよりやHPでの情報発信ありがとうございます。より多くの地域の方々への効果的な発信について模索してみてください。 元気な学校、教職員、担任に囲まれてその姿を児童がみていると児童も元気になります。コロナ禍のもと感染予防対策などで仕事が増え、気を遣うことも多く現場は大変だと思います。こんな厳しい時代だからこそ、先生方が仕事を分業しあったり、知恵を出し合ったりして、時間外勤務時間の削減を達成してください。 働き方については量的な問題よりも質を重視することが必要。 先生方のモチベーションを保ちつつ、働きがいのある職場が一番だと思います。 	感染拡大防止の観点で、課題解決学習の方法を見直し、直接的な接触を必要としないリサーチやインタビューの方法を工夫していく。（手紙やメールによる質問やZoom等を活用してリモートによるインタビュー活動等）	
	小中高一貫教育の推進と開かれた学校づくり	学校情報の積極的公開	学校だよりの発行 学校ホームページの充実	80%	-		-	-	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりの発行や給食だよりの発行、学年のHPの更新などを毎月実施することができた。さらに、5年生の宿泊体験学習の様子をリアルタイムで発信するなど、学校行事の機会を生かして、教育活動の情報発信に努めた。 	4	1	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や学習の機会を捉えて、保護者や地域への情報発信をしていく意義について教職員全体で意識統一を行う。 保護者アンケートを実施して、HPや情報発信の内容についての成果や課題について確認し、改善を行う。 HP作成の研修を行い、教職員のスキルを向上させる。 		
		働き方改革の推進	時間外勤務時間の削減	月45時間以内の教職員の割合	90%	73%		81%	B	<ul style="list-style-type: none"> 退校時刻を設定し、職員室の行事連絡ボードに明示した。さらに、毎週水曜日を定時退校日に設定し、17:30までに退校することを呼びかけた。4月は年度始めの諸準備、6月は授業研究や成績業務などの業務が多く、時間外勤務時間が45時間以上になる教職員が増えた。 	4	1	<ul style="list-style-type: none"> 感染拡大防止の観点で、課題解決学習の方法を見直し、直接的な接触を必要としないリサーチやインタビューの方法を工夫していく。（手紙やメールによる質問やZoom等を活用してリモートによるインタビュー活動等） タブレットを活用した調べ学習の手順や、情報活用の方法（情報発信や個人情報保護）ネットモラルなどについての指導を徹底する。 	時期により、業務が集中し時間外勤務時間が増える傾向がある。業務の見直しを行うとともに計画的な業務遂行に努める。

【自己評価 評価】
 A：100≦（目標達成）
 C：60≦（もう少し）<80
 B：80≦（ほぼ達成）<100
 D：（できていない）<60
 【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。